

家庭用品による 健康被害

——病院モニター報告から

厚生労働省医薬食品局
審査管理課化学物質安全対策室

厚生労働省では、皮膚科（8病院）、小児科（8病院）及び（財）日本中毒情報センターの協力を得て、家庭用品等による健康被害情報を収集する「家庭用品に係る健康被害病院モニター報告制度」を行っています。

平成17年度の報告結果は以下のとおりでした。報告件数の多い製品の種類、性別・年齢別、障害の種類の内訳等の傾向は例年とほぼ同様です。

具体的な健康被害事例の状況、症状等の情報は、厚生労働省のホームページで見ることができます。

1

家庭用品等による 皮膚障害に関する報告

（1）結果の概要

- ・皮膚障害の原因となった家庭用品等の種類は、洗剤、装飾品、ゴム・ビニール手袋等でした（表参照）。
- ・性別では、女性が大半を占めました。そのうち20代、30代及び50代の女性がほぼ同数でした。
- ・皮膚障害の種類は、手の湿疹（刺激性皮膚炎）、手の湿疹（アレルギー性接触皮膚炎）、アレルギー性接触皮膚炎（手以外を含むもの）等でした。

家庭用品との接触部位にかゆみ、湿疹等の症状が発現した場合には、原因と考えられる家庭用品の使用を極力避けることが望ましいです。再度使用して同様の症状が発現する場合には、同一の素材のものの使用は避けることが賢明であり、症状が改善しない場合には、早急に専門医の診療を受けましょう。

また、日頃から使用前には必ず注意書をよく読み、正しい使用方法を守ること、自己の体質について認識し、製品の素材について注意を払いましょう。



(2) 代表的な製品

洗 剤

- ・ 洗剤に関する報告では、台所用洗剤が過半数を占めました。
- ・ 障害の種類は、手の湿疹（刺激性皮膚炎）が最も多く報告されました。

洗剤を使用する際には希釈倍率に注意する等、使用上の注意・表示をよく読んで正しい使用方法を守ることが第一です。また、必要に応じて、保護手袋を着用することや、使用後にクリームを塗ることなどの工夫も有効です。それでもなお、症状が発現した場合は、原因と考えられる製品の使用を中止し、早急に専門医の診療を受けましょう。

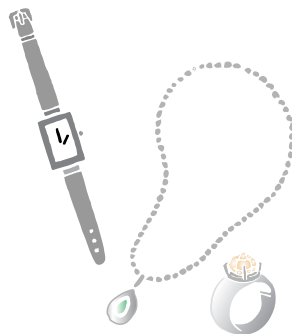


装 飾 品

- ・ 装飾品に関する報告件数における製品別の内訳は、ネックレス、指輪、ピアス等でした。
- ・ 障害の種類は、アレルギー性接触皮膚炎が最も多く報告されました。
- ・ 金属の装飾品での報告のうち、パッチテストを行った例では、ニッケル又はクロムにアレルギー反応を示した例が多かったです。

汗を大量にかく可能性のある時には装飾品類をはずすことが望ましいです。また、ピアスは表皮より深部に接触する可能性が高いため、初めて装着したり、種類を変更したりした後は、症状の発現に特に注意して使用しましょう。

症状が発現した場合には、原因製品の装着を避け、装飾品を使用する場合には、別の素材のものに変更することが症状の悪化を防ぐ上で望ましいです。また、早急に専門医の診療を受けましょう。



家庭用品等による 小児の誤飲事故に関する報告

(1) 結果の概要

- ・ 誤飲事故の原因となった家庭用品等の種類は、タバコ、医薬品・医薬部外品等でした（表参照）。
- ・ 年齢別では、6～11か月が最も多く、次いで12～17か月でした。
- ・ 誤飲事故の発生は、夕刻以降に増加する傾向が見られました。

乳幼児は、身の回りのあらゆるものを分別なく口に入れてしまうため、保護者は誤飲する可能性のあるものを極力子どもが手にする可能性のある場所に置かないことが最も有効な対策です。乳幼児の口に入るサイズはおよそ直径3cmといわれており、このサイズ以下のものには注意を払いましょう。



Attention

【金属製アクセサリー類】

海外では、子どもが鉛を高濃度で含む金属製アクセサリーを誤飲し、その製品が胃の中に長時間とどまったため、鉛中毒となり亡くなったという事故がありました。



(2) 代表的な製品

タバコ

- ・タバコに関する報告は、生後6～11か月の乳児に集中しており、さらに12～17か月の幼児の事故とあわせると報告例の約9割を占めました。

タバコや灰皿は乳幼児の手の届かないところに保管すること、飲料の空き缶等を灰皿代わりに使用しないことなど、それらの取扱いや置き場所に配慮しましょう。

特に子どもが生後6～17か月の場合には細心の注意を払いましょう。



医薬品・医薬部外品

- ・医薬品・医薬部外品に関する報告では、入院事例も報告されました。
- ・タバコに比べ事故が発生する年齢層が広く、1～2歳児に多く報告されました。

医薬品等の誤飲事故の大半は、保管を適切に行っていなかった場合や、保護者が目を離したすきに発生していました。

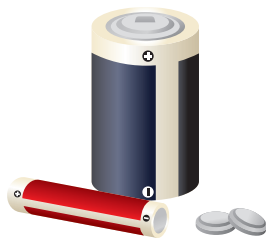
特に医薬品の誤飲では健康被害が発現する可能性が高く、時に重篤な障害をもたらすおそれがあるので、保管・管理に十分注意しましょう。



電池

- ・電池の誤飲も、多数報告されています。

放電しきっていないボタン電池は、体内で消化管等に張り付き、せん孔を起こす可能性があるため、子どもの目につかない場所や手の届かない場所に保管しましょう。



家庭用品等による 吸入事故等に関する報告

(1) 結果の概要

- ・ 吸入事故等の原因となった家庭用品等の種類は、殺虫剤、洗浄剤、芳香・消臭・脱臭剤等でした（表参照）。
- ・ 性別では男女の差はほとんどありませんでした。年齢別では、9歳以下の子どもが半数近くを占めました。
- ・ 製品の形態は、スプレー式の製品、次いで液体の製品が多く報告されました。



今年度も、子どもの健康被害に関する事故が多く寄せられました。保護者は家庭用品等の使用や保管には十分注意を払いましょう。

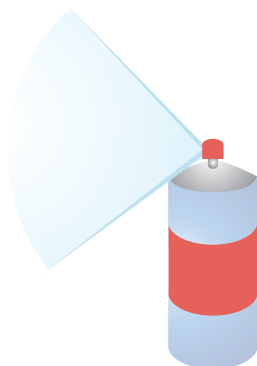
使用方法や製品の特性について正確に把握していれば、事故の発生を防ぐことができた事例やわずかな注意で防ぐことができた事例も多数ありました。日頃から使用前には必ず注意書をよく読み、正しい使用方法を守ることが重要です。



(2) 代表的な製品

殺虫剤

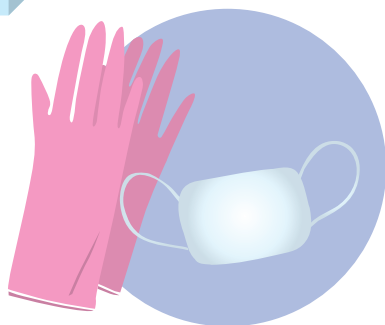
特に近年はハチ・アブ等の駆除を目的とした強力噴射タイプのエアゾール等、新たな商品も販売されています。使用前に製品表示を熟読し、よく理解した上で正しく使用しましょう。また、保管、廃棄の際にも注意を払いましょう。



洗浄剤・洗剤、漂白剤

- ・ 洗浄剤・洗剤に関する事例では、塩素系の製品が最も多く報告されました。
- ・ 製品の形態の内訳は、ポンプ式スプレーが最多でした。
- ・ 漂白剤に関する事例では、塩素系の製品が大半を占めました。

被害を防ぐには、換気を十分に行い、適正量を使用し、マスク等の保護具を使用することが重要です。また、塩素系の洗浄剤・漂白剤と酸性洗浄剤等を混合して使用すると塩素ガスが発生することがあるので注意しましょう。



[表] 平成17年度 家庭用品等による健康被害のべ報告件数

(上位10品目及び総計)

皮膚障害		小児の誤飲事故		吸入事故	
洗剤	52 (32.9%)	タバコ	224 (30.9%)	殺虫剤	202 (24.2%)
装飾品	18 (11.4%)	医薬品・ 医薬部外品	100 (13.8%)	洗浄剤	131 (15.7%)
ゴム・ ビニール手袋	17 (10.8%)	玩具	69 (9.5%)	芳香・消臭・ 脱臭剤	82 (9.8%)
下着	6 (3.8%)	金属製品	54 (7.4%)	園芸用殺虫・ 殺菌剤	53 (6.3%)
眼鏡	6 (3.8%)	プラスチック 製品	43 (5.9%)	漂白剤	51 (6.1%)
ベルト	6 (3.8%)	硬貨	27 (3.7%)	消火剤	43 (5.1%)
時計バンド	5 (3.2%)	洗剤・洗浄剤	26 (3.6%)	洗剤	33 (4.0%)
時計	5 (3.2%)	電池	23 (3.2%)	除草剤	20 (2.4%)
スポーツ用品	5 (3.2%)	食品類	23 (3.2%)	灯油	20 (2.4%)
靴下/接着剤 /文房具/ナイ ロンタオル	各3 (1.9%)	化粧品	19 (2.6%)	防虫剤	17 (2.0%)
総計	158 (100.0%)	総計	725 (100.0%)	総計	835 (100.0%)

化学物質の安全対策ホームページ〔厚生労働省〕

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/seikatu/kagaku/index.html>

子どもに安全をプレゼント—事故防止支援サイト—〔国立保健医療科学院〕

<http://www.niph.go.jp/soshiki/shogai/jikoboshi/index.html>

家庭用品等による急性中毒等の情報〔財団法人日本中毒情報センター〕

<http://www.j-poison-ic.or.jp/homepage.nsf>